

古書のたのしみ（令和五年十月）

土屋 博

一「和文讀本 卷一、二、三、四」稲垣千穎編輯
（奎文堂、明治十五年刊、三四十三八十三九十四九丁）
古書價格五百圓也。

稲垣千穎（ちかい）は、埼玉縣士族、一八四五年陸奥國棚倉（現在の福島県東白川郡棚倉町）生れ、一九一三年歿。國學者、東京師範學校教諭。音楽取調掛として「螢の光」の作詞を担当す。

卷一の目次は、歴代（水鏡より景行天皇の御世の段など）、儀式（公事根源より朝賀など）、軍旅（宇治拾遺物語より源頼信平忠恒をせむることなど）。卷二の目次は、地理（本居宣長の伊勢國など）、動植（今昔物語より狗大なる蛇を咋殺す話など）、言行（平家物語より高倉院天皇女童に御衣賜はせし御事など）、才藝（體源抄より堀河院天皇の神楽を多近方に傳させ給ひし事など）。卷三の目次は、武勇（宇治拾遺物語より袴垂保昌にあふことなど）、遊戯（古今著聞集より行成卿扇合のことなど）、俳諧（徒然草より道風朝臣の朗詠集のことなど）、羈旅（源平盛衰記より福原の神都に供奉の人々所々遊覽の條など）、哀傷（源平盛衰記より二條院上皇崩御の條など）、傳（本居宣長の九條廢帝など）。卷四の目次は、評（徒然草より四時をりをりの評など）、説（本居宣長の後の世ははづかしき物なることなど）、教訓（徒然草より心を一方にむくべきことなど）、諫争（十訓抄より人を諫ることなど）、勅書（後醍醐天皇の名和長年に賜はせし御書など）、院宣（いんぜん）御請文（うけぶみ）（東鑑より文治五年四月廿一日院宣の御請文など）、將軍家御教書（東鑑より和田義盛鎌倉を亂りし時將軍家の御教書など）、消息（源平盛衰記より新大納言成親卿備前へ流され給ふをり小松内大臣殿より京よりなど）。

二「頭書圖彙 蒙求校本字引大全 上下」關徳校閲、伊藤慶孝編纂
（寶文軒吉岡氏蔵、發兌書林北村孝二郎、明治十六年刻成出版、五七十六、二丁）
古書價格四百圓也。

編纂人伊藤慶孝、出版人吉岡平助ともに大坂府平民なり。「蒙求」は有名人物の言行を子供向きに編輯したる教科書なり。たとへば「孔明臥龍」など。凡例に曰く、「蒙求の書は文簡にして旨深く初學幼童の得て解し易からざるもの多し。是を以て余自から固陋を忘れ浅劣を省みず鄙言を以て訓話を作り名けて蒙求校本字引大全と云ふ」と。

三「中等教育 東洋史 全」文學士棚橋一郎編
（東京三省堂、明治三十二年刊、定價金六十五錢、一七〇頁）

古書價格四百圓也。たとへば、孔子については、「孔子名は丘字は仲尼魯の人なり。迅に周道の衰へて亂臣賊士の輩出せるを慨し堯舜禹湯文武周公の道を祖述し仁道を説きて天下に周遊す。弟子三千餘人六藝（禮樂射御書數）に通ずる者七十有二人。」云々。

四「漢字襍話」銅牛樋口勇夫著

（郁文舎・吉岡寶文館、明治四十四年訂正三版、定價金壹圓貳拾錢、四三八頁）

古書價格三百圓也。東京朝日新聞に連載せられたるもの。著者曰く、「十行以上讀んで貰へば、必ず断片的な智識が一つは得らるる」由。たとへば、「盜」といふ字は、三水扁に欠の字を書き其下を皿を置いて出来た字で、飢ゑて居る人間が他人の皿中の食物を見て涎を垂らし是を奪ひ食はむとする會意の字なる由。

五「十八史畧鈔 全」深井鑑一郎校

（寶文館藏版、明治四十四年刊、定價金參拾錢、一四八頁）

古書價格八百圓也。深井鑑一郎（一八六五年生れ、一九四三年歿）は四十年間に亙り東京府立四中校長を務む。緒言に曰く、「現今中等教育及同程度學校課漢文者其要旨在練習文字養成讀書理解之力給作文資料併涵養德性」と。

六「正續文章規範鈔 全」深井鑑一郎校

（寶文館藏版、明治四十四年刊、定價金參拾錢、一四四頁）

古書價格千圓也。たとへば、諸葛武侯「前出師表」、蘇東坡「前赤壁賦」、陶淵明「歸去來辭」を含む。

七「女子習字 四季手紙の書方」田中三省編書、竹園畫

（東京日吉堂、大正五年十一版、定價金四拾錢、五七丁）

古書價格三百三十圓也。初版は大正二年。「月見に招く文」の例文、以下の如し。「朝夕少し凌ぎよく成り來まし候と思ふ間にはや秋も最中となり候て望の夜もちかづき参り候。去年は雲に折角の思ひをさまたげられ候もこの望の夜こそ昨今の模やうにては晴と存じられ候へばむさくるしうも手前宅までおはこび下され間敷や」云々。

八「東西遊記・常山紀談・雲萍雜志鈔」吉田彌平編、石井庄司補訂

（光風館藏版、昭和十四年修正再版、定價金四十七錢、一一八頁）

古書價格百十圓也。初版は昭和十三年。中學校、高等女學校二、三年生用教科書なり。橘南谿「東西遊記」より、「鎌倉は東武通行の人の見る處にして珍しからねど、又親しくその地に遊べば昔の倂、山川別しては神社佛閣に残りて懐古の情に堪へず。」云々と。湯浅常山「常山紀談」より、「長尾景虎或夜石坂檢校に平家を語らせて聞かれけるに鶴の

段を聞きて頻りに落涙せられけり。」云々と。

柳澤淇園「雲萍雜誌」より、「或人文盲なる者を異見して他の事はいらす。たゞ堪忍の二字をよく守るべしといへば、文盲の人は頭を傾けかんにんとは四字にて侍らずやと」云々と。

九「蒙求」大島庄之助解釋

（研究社學生文庫、昭和十六年七版、定價五拾錢、二二八頁）

古書價格七百圓也。夏目漱石の名前の由来となりたるは、「孫楚漱石」（晋書孫楚字子荆太原中都人云々）なり。また、螢雪の功の由来は「車胤聚螢」（晋車胤字武子南平人云々）なり。

十「古典かな字鑑」飯島春敬編

（書藝文化新社、昭和四十九年二十版、一六四頁）

古書價格三百圓也。初版は昭和三十五年。いろは順にくずし字の實例を纏めたる、古文書解讀のための必携書なり。たとへば、「い」については、以、伊、移、意につき、紀貫之、小野道風、藤原行成、藤原公任、源俊頼らの真蹟を列挙せり。

（令和五年十一月二日受附）